

第3回 流域懇談会 意見と対応方針

平成18年3月27日
養老川流域懇談会事務局

流域の課題

計画全般

治水

河川利用

環境

1. 計画全般

計画全般

意見

地域や学校との連携の部分は具体的であるが、その他について具体性に欠けるのではないか。
全てに具体性を持たせることは無理だと思われるが、もう少し具体性を持たせて欲しい。

計画全般

回答

河川工事は、流下能力を確保するため築堤・掘削や河道拡幅を行います。これに伴う占用施設等の改築等は関係者と調整を行っており現在、廿五里堰の対応と高滝ダムの堆砂について検討をしていますので、議事(3)(4)で説明いたします。

計画全般

本文記載内容

《P25》
親水整備として、高水敷の整備や階段護岸、管理用通路の舗装などを行います。

2. 治水

治水

意見

「高潮計画としては東京湾に伊勢湾台風級が最も危険なコースで来襲した非常に危険な状況を想定して、計画しています。現在一部の堤防高が50cm程度不足して状況にあります。千葉県では高潮被害よりも頻繁に発生している洪水の被害の軽減を優先して実施している。」について、最近の地震災害では、津波が大きくなっており、津波への配慮が必要となるときに、洪水優先で津波・高潮は行わないのはおかしい。河川サイドとしても将来的に津波・高潮についても検討していくことが必要ではないか。

治水

回答

平成16年8月に策定された「東京湾沿岸海岸保全基本計画」によると、富津市以北では計画高潮位が既往の最大津波高を上回っており、高潮対策を進めることで津波対策も同時に図れると考えます。なお、千葉県の地域防災計画では、1703年の元禄地震規模(M8.2)を想定し県周辺を震源とする津波防災対策の検討を進めているところで、今後これらの結果等を踏まえ、養老川においても津波に対する検討を行うこととします。

治水

本文記載内容

《P30》
第2節 河川整備の規模を超える洪水や高潮・津波に備えるため、河川工事などのハード対策と合わせソフト対策の積極的な推進を図ります。

治水

意見

安全性の問題について費用対効果の部分をほとんど配慮されていない。十分な効果のあるもの、若しくは費用以上の効果があるものについて整備していく旨を記載していただきたい。

治水

回答

当日回答
一般的に言われている費用対効果は、河川では多少意味合いが異なりますが、今後検討していく予定です。
現段階では、平成8年度災害と同程度の流量に対して安全に流すことのできる河川を整備計画の目標としています。

治水

本文記載内容

《P24》
既往の整備状況や浸水実態，氾濫区域の資産分布を踏まえ，過去最大規模の平成8年9月洪水（降雨確率で概ね20年に1回発生する洪水）を，河口から市原市牛久地先まで安全に流下させることを目標とします。

治水

意見

治水計画を策定する際に，今以上に二線堤を活用した計画として欲しい。
計画と二線堤の関わりを説明して欲しい。

治水

回答

当日回答
整備計画では，二線堤内に小堤を築造し目標流量を流下させ，これ以上の流量が発生した場合は，二線堤を活用するように計画しています。

治水

本文記載内容

《P26》
河道の維持管理や堤外民地の浸水被害を軽減するための小堤を両岸に築造し現存する二線堤を保全してさらに洪水防御を図るものとしてします。

3 . 河川利用

河川利用

意見

養老川の漁獲量が激減している。平成9～14年までの統計だけでなく，長期的なデータを提示して欲しい。長期的に見て，減少の原因がわかるかも知れない。

河川利用

回答

県漁業資源課から漁獲量のデータを収集し、確認されたデータを追加しました。また、養老川の魚かい類の回復を図るため種苗放流が継続して行われている資料も追加しました。

河川利用

本文記載内容

《P16》
漁獲量は表2-4に示すように急速に減少し、その原因はアユの冷水病発生や川漁師の減少などが挙げられていますが、正確な原因は解明されていません。表2-5のとおり現在、養老川流域では魚かい類の種苗放流が行われています。

河川利用

意見

現在廿五里堰に魚道がない。堰の下にアユが集まるので、魚道を設置すれば自然に高滝ダムまで遡上するのでは。高滝ダムに魚道を作ることはできないか。アユの冷水病の罹病率は、天然遡上しているものの方が低い。ダムに魚道を作ることによって、その中間で捕獲をして、上流で放流することが出来る。

河川利用

回答

当日回答
整備計画では、廿五里堰は改築若しくは西広堰への統廃合が検討されており、この整備検討の中で魚道の設置を考えます。

河川利用

本文記載内容

《P25》
また、良好な河川環境を保全・再生するため魚道の整備や、水際の多自然化を図り、親水整備として、高水敷の整備や階段護岸管理用通路の舗装などを行います。

河川利用

意見

「森林浴の楽しめる「栗又の滝遊歩道」（約1.7km）が整備され」の記載について、工事の進行途中であり、2～3年止まっているのが現状なので、まだ途中であるようにしてもらいたい。「親水施設の利用は、あまり活発とはいえない・・・」について、遊歩道の連続性が欠けており、温泉街にある遊歩道との接続が地元の念願である。このことを解決することによって、さらに観光の利便性が出てくる。この部分の表現を変えることはできないか。

河川利用

回
答

「遊歩道が整備され」を「遊歩道の整備を進めており」に修正します。

河川利用

本文記載内容

《 P 2 3 》

「粟又の滝遊歩道」(約1.7km)の整備を進めており、新緑および紅葉シーズン等には多くの観光客やハイカーが訪れます。

4 . 環 境

環 境

意
見

「昭和30～40年代に埋め立てられたほとんど消失した河口部の干潟は、養老大橋の付近に僅かですが残されています。この干潟は、塩性の湿性植物や渡り鳥の休息や採餌の場所になっており、可能な限りその環境を保全することが必要です。」という記述では、現状での保全であり、河川環境上なにもしないという印象に取れる、積極的な考え方とはいえない。

保全の方向性について、渡り鳥の質を考えて、例えば「シギ・チドリがえさを取れる環境を整備する」など前向きな姿勢で考えて欲しい。

環 境

回
答

養老大橋左岸付近は、水辺の貴重な自然環境として保全に努めます。

保全の方向性について、今後市原市を含め専門家と相談しながら検討します。

環 境

本文記載内容

《 P 2 4 》

今後専門家の方々と相談しながら河川環境の保全に努めます。

	環 境
意 見	高滝ダムの水質はCOD3を、満足していない。飲料水として、適格であろうとなかろうと利用している以上、この部分をいれて早急に解決しなければならない。

	環 境
回 答	当日回答 高滝ダム貯水池水質保全対策協議会の現況内容を整備計画に含めます。

	環 境
本文記載内容	《P18》 引き続き、「高滝ダム貯水池水質保全対策協議会」を中心に、水質浄化対策を行っていきます。

	環 境
意 見	高滝ダムから養老渓谷までの区間で市の助成により合併浄化槽の定期点検を法制化してはどうか。（費用は水道料金に含め利用者負担とすれば。）

	環 境
回 答	市原市・大多喜町では、合併処理浄化槽の設置費用の助成を行っています。 高滝ダム貯水池水質保全対策協議会を中心に水質浄化対策を実施している事業を調査し、「千葉県養老川水系高滝ダム上流地域水道原水水質保全事業実施促進計画」及び「水質保全事業フォローアップ計画」による発生源の対策を確認しました。

	環 境
本文記載内容	《P29》 関係機関や地域住民の協力を得ながら公共下水道、農業集落排水の整備や合併処理浄化槽の普及・維持により水質の向上に努めます。

環 境

意 見

高滝ダム湖に外来種のおオフサモ（水草）が、古敷谷川付近に繁殖している。このことについて、記載する必要があるのではないか。

環 境

回 答

関係機関等に問合せを行いました。現在、おオフサモの群生については確認できていません。
おオフサモについて、被害状況や除去の可否について、今後検討していきます。

環 境

本 文 記 載 内 容

《P20》
また、高滝ダム貯水池の一部には、特定外来生物のおオフサモがみられます。

環 境

意 見

椎津川流域でH14から行なっている里山林づくりの内容を参考にして、養老川流域のPRの材料にすれば、荒れている山林がより良くなっていくのではないかと。

環 境

回 答

椎津地区で行われている里山林づくり推進事業については、加茂地区などの養老川流域での実施予定は現在ありません。
千葉県里山条例にある「里山活動協定」による整備が今後考えられます。

5 . その他

その他

意見

環境教育や総合学習に期待した内容となっているが、先生の実力が伴わず、総合学習で外部講師を依頼するケースが非常に多い。実態を把握せず学校へ過度に期待することは、将来先細りになるなど問題にならないか。

その他

回答

当日回答
環境教育とは多くの課題に対応できる教育で、今後も環境団体、NPO等と協力しながら総合学習を支援していきたいと考えます。